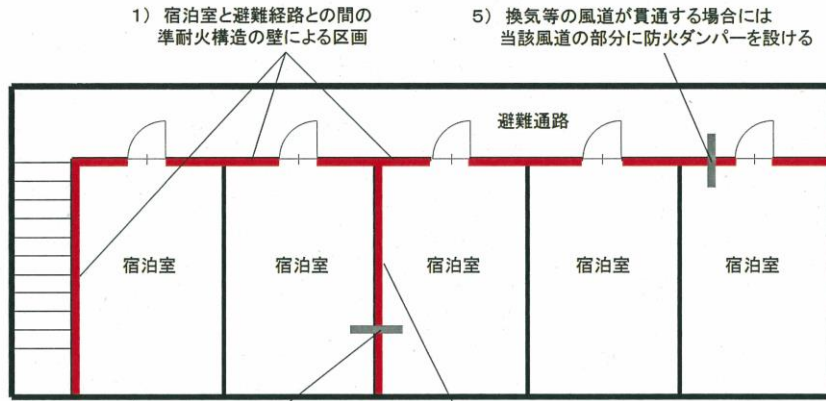
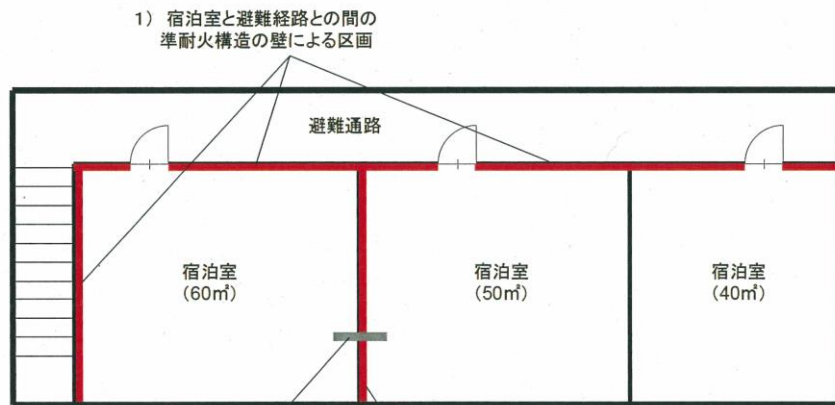


別図 1

A) 防火の区画の対応例








- 4) 給水管、配電管等が貫通する場合 当該管と区画の間を不燃材料で埋める
- 2) 4以上の宿泊室が互いに隣接する場合の3室以内ごとの準耐火構造の壁による区画



- 4) 給水管、配電管等が貫通する場合 当該管と区画の間を不燃材料で埋める
- 3) 隣接する2以上の宿泊室が100㎡を超える場合の100㎡以内ごとの準耐火構造の壁による区画

別図 2

B) 自動火災報知設備等の設置の例

-  直接、屋外への出口等(直接屋外、避難上有効なバルコニー)に避難できる居室
-  居室の出口から屋外への出口等の歩行距離が8m以下であり、壁及び戸(ドアクローザーが設けられているもの等)によって通路と区画されている居室
-  屋外への出口までの歩行距離8m以内
-  ドアクローザーのついた戸
-  自動火災報知設備等の感知器の設置位置

